

SYLLABUS

シラバス

令和8年度前期

歯科衛生士科 2年次

医療法人社団 慈恵会
神戸総合医療専門学校

歯科衛生士科 教育課程（令和8年度前期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	歯科診療補助Ⅳ	1	30	2	後期
化学	2	30	1	前期	歯科診療補助Ⅴ	1	15	3	前期
心理学	1	15	1	前期	歯科材料学	1	15	1	後期
倫理学	1	15	1	前期	医療安全	1	15	2	前期
歯科英語	1	15	1	後期	臨床検査	1	15	2	前期
保健体育	2	30	1	前期	臨床指導教育Ⅰ	1	15	1	前期
キャリアデザインⅠ	1	15	1	前期	臨床指導教育Ⅱ	1	15	2	後期
キャリアデザインⅡ	1	15	3	後期	臨床指導教育Ⅲ	1	15	3	前期
情報処理	2	30	1	前期	臨床実習Ⅰ	1	45	1	後期
解剖・生理学Ⅰ	2	30	1	前期	臨床実習Ⅱ	9	405	2	後期
解剖・生理学Ⅱ	2	30	1	前期	臨床実習Ⅲ	10	450	3	前期
口腔解剖学	2	30	1	前期	摂食嚥下	2	30	2	前期
口腔生理学	2	30	1	後期	チーム医療	2	30	2	前期
生化学・口腔生化学	2	30	1	後期	関連医学・医学概論	2	30	2	前期
微生物学・口腔微生物学	2	30	1	前期	看護学	1	15	2	前期
病理学・口腔病理学	2	30	1	後期	医療事務・受付	1	15	3	後期
薬理学・歯科薬理学	2	30	1	後期	総合歯科演習	1	30	3	後期
衛生・公衆衛生	2	30	1	前期	歯科衛生学特論Ⅰ	2	60	3	後期
口腔衛生学	2	30	1	前期	歯科衛生学特論Ⅱ	1	30	3	後期
情報統計学	2	30	1	後期					
衛生行政	2	30	2	前期					
歯科衛生士概論	1	15	1	前期					
歯科臨床概論	1	15	1	前期					
保存修復学	1	15	1	後期					
歯内療法学	1	15	1	後期					
歯周病学	1	15	1	後期					
歯科補綴学	2	30	1	後期					
小児歯科学	2	30	1	後期					
障害者歯科学	1	15	1	後期					
歯科矯正学	2	30	1	後期					
口腔外科学	2	30	2	前期					
歯科麻酔学	1	15	2	前期					
高齢者歯科学	2	30	2	前期					
歯科放射線学	1	15	2	前期					
先端医療	2	30	2	前期					
歯周病予防処置Ⅰ	2	45	1	前期					
歯周病予防処置Ⅱ	2	45	1	後期					
歯周病予防処置Ⅲ	2	45	2	前期					
歯周病予防処置Ⅳ	1	30	2	後期					
齧蝕予防処置	2	45	2	前期					
歯科保健指導Ⅰ	1	30	1	前期					
歯科保健指導Ⅱ	1	30	1	後期					
歯科保健指導Ⅲ	1	30	2	前期					
歯科保健指導Ⅳ	2	45	2	後期					
歯科保健指導Ⅴ	1	30	3	前期					
歯科保健指導Ⅵ	1	30	3	後期					
栄養指導	2	30	2	前期					
歯科診療補助Ⅰ	2	45	1	前期					
歯科診療補助Ⅱ	2	45	1	後期					
歯科診療補助Ⅲ	2	45	2	前期					

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
衛生行政		講義	江原 美奈	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
適切な歯科衛生を行うために、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制を理解し、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療と社会環境を説明できる。		5. 社会保障制度、社会福祉制度を概説できる。		
2. 歯科衛生士と法律を説明できる。				
3. 医療関係職種を概説できる。				
4. その他の関係法規を概説できる。				
授業計画				
回	内容			
1	法制度をなぜ学ぶか？ 医療法（沿革及び目的、医療提供の理念）			
2	医療法（医療の安全の確保、及び医療提供体制の確保）			
3	歯科医師法 歯科衛生士法（沿革及び目的）			
4	歯科衛生士法（業務および義務）			
5	歯科衛生士法（免許） 歯科技工士法 医療関係職種と法律			
6	地域包括ケアシステム 地域保健に関する法律			
7	歯科口腔保健の推進に関する法律 薬事に関連する法規 その他の衛生法規			
8	社会保障（医療保険の種類）			
9	社会保障（医療保険の仕組み、介護保険制度概要）			
10	社会保障（介護保険給付について）			
11	社会保障（介護サービスについて）			
12	社会保障（年金保険 労働法規 雇用保険 労災）			
13	社会保障（社会福祉制度）			
14	医療の動向			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	国家試験に対応できる基礎力を評価基準とする。		
レポート・課題	30%	毎回の授業におけるワークへの取り組みを評価する。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
口腔外科学		講義	大森 昭輝	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な、顎口腔領域に生じる各種疾患の特徴や症状、診断法および治療法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 顎口腔領域に生じる各種疾患を分類できる。 2. 先天異常と発育異常の症状と治療法を概説できる。 3. 顎口腔領域の損傷と機能障害の症状と治療法を概説できる。 4. 口腔粘膜疾患の種類と症状および治療法を概説できる。 5. 顎口腔領域の化膿性炎症疾患の症状と治療法を概説できる。 6. 顎口腔領域の嚢胞性疾患の種類と症状および治療法を概説できる。 7. 顎口腔領域の腫瘍の種類と症状および治療法を概説できる。 8. 唾液腺疾患の症状と治療法を概説できる。 9. 顎口腔領域の神経疾患の症状を概説できる。 10. 抜歯・小手術の術中・術後の偶発症および術後の注意を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	口腔 (こうくう) 外科の概要+先天異常と発育障害 (その1)			
2	先天異常と発育障害 (その2)			
3	損傷+歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 224頁～226頁を参照)			
4	口腔粘膜疾患 (その1)			
5	口腔粘膜疾患 (その2)			
6	炎症+消炎手術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 202頁～205頁を参照)			
7	嚢胞+嚢胞摘出術・嚢胞開窓術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 214頁～218頁参照)			
8	腫瘍および腫瘍類似疾患+良性腫瘍切除術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 221頁～222頁参照)			
9	顎関節疾患			
10	唾液腺疾患+唾石摘出術 (Ⅱ編5章 口腔外科小手術 218頁～220頁参照)			
11	神経疾患			
12	血液疾患+口腔心身症			
13	口腔外科診療の実際 (診察と診断・歯科診療で問題となる全身疾患)			
14	口腔外科診療の実際 (口腔外科手術の準備・手術の手技)			
15	口腔外科診療の実際 (口腔外科小手術: 抜歯術・小帯切除術・歯槽骨整形術・口腔インプラント手術)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験の結果でのみ判定します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載		講義前に前週の要点をまとめた小テストを配付します。(各自自己採点)		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	講義前に当日使用するスライドを印刷し配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	必要があれば随時学生の皆さんにお知らせします。			
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科麻酔学		講義・演習	小谷 順一郎	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科衛生業務を行うために必要な全身管理ならびに局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. バイタルサインを説明できる。 5. 全身的偶発症とその対応を説明できる。 2. 歯科における局所麻酔法の種類と目的を説明できる。 6. バイタルサインの測定（血圧）の技能を習得する。 3. 精神鎮静法・全身麻酔の適応症と種類を説明できる。 7. 一次救命処置（BLS）の知識・技能を習得する。 4. 内科的有病患者の歯科治療上の注意点を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科麻酔学概論、バイタルサインの重要性			
2	【演習】手動血圧測定法			
3	歯科麻酔法各論① 局所麻酔法			
4	歯科麻酔法各論② 全身麻酔・精神鎮静法			
5	臨床全身管理各論①（循環器疾患への対応）			
6	臨床全身管理各論②（呼吸器疾患・脳血管障害への対応）			
7	臨床全身管理各論③（歯科治療時の全身的偶発症への対応）			
8	【演習】一次救命処置（Basic Life Support:BLS）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	講義・演習で得た知識について、医療人として必要なレベルに達しているかを評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載	講義ごとにレジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学	佐久間泰司 他編		学健書院	
改訂版 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療	小谷順一郎 他編		永末書店	
自由記載				
備考				
高齢化が進む社会の中で歯科医療のニーズも大きく変化しています。内科的有病患者が歯科治療を受ける機会も格段に増えています。歯科衛生士としても全身管理に関する知識・態度・技能が求められます。歯科麻酔学講義・演習では、これらの基本となる項目をできるだけわかりやすく解説します。積極的な態度での受講を期待します。				

令和8年度シラバス

診療放射線科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科放射線学		講義	岩井 克磨	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
放射線を利用した撮影法と、被ばくの影響や防護方法を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
放射線被ばくの影響と防護の方法を理解する。 エックス線装置の仕組みと管理方法について理解する。 撮影原理・撮影方法について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	放射線と歯科医療			
2	放射線の人体への影響と防護について			
3	口内エックス線撮影(1) 機器・撮影法			
4	口内エックス線撮影(2) 画像評価・安全管理			
5	パノラマエックス線撮影			
6	その他の画像検査法・放射線治療			
7	画像の評価について			
8	まとめと解説			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	70%	第1回から第7回まで毎回課題を課す。別途評価基準を示す。		
小テスト	30%			
その他				
自由記載	小テストは第8回講義にて実施する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
先端医療		講義・演習	安岡 大介・末光 妙子・相神 ゆり	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科医療の発展にともない、歯科衛生士業務は先端かつ高度な知識を必要としている。口腔インプラント治療、レーザー治療、口腔内スキャナーについて学ぶことを目的とする。ミュゼホワイトニングの漂白治療について学ぶことを目的とする。自分自身のリラクセス、診療室でのアロマの応用について学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1.インプラントの基礎知識が説明できる。 5.レーザー治療について説明できる。 2.インプラント治療の流れ、術式が説明できる。 6.口腔内スキャナーについて概説できる。 3.インプラントのメンテナンス方法が説明できる。 7.ホワイトニングの基礎知識が説明できる。 4.レーザー治療について説明できる。 8.アロマの応用を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	インプラントの基礎知識1			安岡
2	インプラントの基礎知識2			安岡
3	インプラント治療の流れ・術式について			安岡
4	インプラントのメンテナンスについて			安岡
5	口腔内スキャナーの基礎知識			安岡
6	口腔内スキャナーの相互実習			安岡
7	レーザー治療の基礎知識			安岡
8	ホワイトニングの基礎知識 1			末光
9	ホワイトニングの基礎知識 2			末光
10	ガムダム等保護器材（実習）			末光
11	ガムマッサージ（実習）			末光
12	ホワイトニング相互実習 1			末光
13	ホワイトニング相互実習 2			末光
14	アロマセラピー、精油の基礎知識を学ぶ <セルフケアで使えるアロマクラフトづくり>			相神
15	アロマセラピーを歯科臨床に活かす			相神
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	40%	40%（安岡）		
レポート・課題	20%	レポートにて評価。別途評価基準を示す。10%（安岡） 別途評価基準を示す。10%（相神）		
小テスト	20%	20%（末光）		
その他	20%	別途評価基準を示す。20%（末光）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新版みるみる理解できる図解スタッフ向けインプラント入門	中島康 他 監著		クインテッセンス出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
必要に応じてプリントを配付する。（安岡）				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名		
歯周病予防処置Ⅲ		講義・演習	藤澤 仁美・三村 明美 野崎 愛・今川 由香		
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期	
45 時間（2 単位）		23 回	2 年次	前期	
授業の目的・概要					
歯周疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得し臨床実習で対応できる力を身につける。歯周組織の状態に応じた、器具の選定が行えるよう実習を通して学習する。					
授業の到達目標					
1. 人の歯・歯肉・口腔の検査ができる。 2. 審査の結果を説明できる。 3. 人の口腔内でシックルタイプスケーラーを操作できる。 4. 人の口腔内でキュレットタイプスケーラーを操作できる。 5. 超音波スケーラーを操作できる。			6. エアースケーラーを操作できる。 7. シャープニングができる。		
授業計画					
回	内容				
1	歯・歯周組織の検査	基礎実習室	16	機械的スケーラー フェザータッチ	臨床実習室
2	口腔内診査	臨床実習室	17	機械的スケーラー フェザータッチ	臨床実習室
3	口腔内診査	臨床実習室	18	機械的スケーラー シンプルマネキン	臨床実習室
4	ハンドスケーラー 復習	基礎実習室	19	機械的スケーラー シンプルマネキン	臨床実習室
5	ハンドスケーラー 復習	基礎実習室	20	機械的スケーラー 上下顎	臨床実習室
6	ハンドスケーラー 上下顎前歯部	臨床実習室	21	機械的スケーラー 上下顎	臨床実習室
7	ハンドスケーラー 上下顎前歯部	臨床実習室	22	機械的スケーラー 上下顎	基礎実習室
8	ハンドスケーラー 上下顎右側臼歯部	臨床実習室	23	機械的スケーラー 上下顎	基礎実習室
9	ハンドスケーラー 上下顎右側臼歯部	臨床実習室			
10	ハンドスケーラー 上下顎左側臼歯部	臨床実習室			
11	ハンドスケーラー 上下顎左側臼歯部	臨床実習室			
12	シャープニング 復習（ヒューフレディ）	基礎実習室			
13	シャープニング 復習（ヒューフレディ）	基礎実習室			
14	シャープニング（まとめ） 歯面清掃器	基礎実習室			
15	機械的スケーラー	基礎実習室			
成績の評価方法と基準					
種別	割合	評価基準・その他備考			
定期試験	50%				
レポート・課題	30%	評価基準は別途示す。			
小テスト	5%				
その他	15%	実技テスト：15%			
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。				
教科書					
書名	著者・編集者名		出版社名		
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社		
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社		
自由記載					
参考文献					
書名	著者・編集者名		出版社名		
なし					
自由記載					
備考					

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態		担当教員名			
う蝕予防処置		講義・演習		今川 由香・野崎 愛・三村 明美			
時間数（単位数）		授業回数		年次		開講時期	
45 時間（2 単位）		23 回		2 年次		前期	
授業の目的・概要							
1年次の口腔衛生学でう蝕について習得した知識を基に、う蝕予防の専門的な知識、技術を身に付けて、今後の臨床実習に活かせる。 臨床実習において補助ができる事を確認する。							
授業の到達目標							
1. う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる。 2. う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。 3. フッ化物応用法を説明できる。 4. フッ化物歯面塗布法の実施できる。 5. フッ化物急性中毒の算出できる。				6. 小窩裂溝填塞法の適応と術式を説明できる。 7. 小窩裂溝填塞法を実施できる。 8. う蝕活動試験の種類、目的を説明できる。 9. う蝕活動試験を実施し、評価できる。 10. 臨床実習での機材準備、器具の受け渡しができる。			
授業計画							
回	内容						
1	う蝕の基礎知識	う蝕の分類と原因	基礎実習室	16	臨床実習準備 1	レジン充填補助	基礎実習室
2	食品とう蝕誘発性	代用甘味料	基礎実習室	17	臨床実習準備 2	間接修復補助	基礎実習室
3	フッ化物配合歯磨剤	フッ化物洗口	基礎実習室	18	臨床実習準備 3	歯髄処置補助	基礎実習室
4	フッ化物の毒性（急性中毒の算出方法）		基礎実習室	19	臨床実習準備 4	歯髄処置補助	基礎実習室
5	イオン導入法		基礎実習室	20	臨床実習準備 5	歯髄処置補助	基礎実習室
6	フッ化物歯面塗布	薬剤と術式	基礎実習室	21	臨床実習準備 6	根管充填補助	基礎実習室
7	フッ化物歯面塗布		臨床実習室	22	臨床実習準備 7	根管充填補助	基礎実習室
8	フッ化物歯面塗布		臨床実習室	23	臨床実習準備 8	根管充填補助	基礎実習室
9	フッ化物局所応用法（ホームケア）		基礎実習室				
10	フッ化物局所応用法（ホームケア）		基礎実習室				
11	小窩裂溝填塞法	適応歯、術式：三村	基礎実習室				
12	小窩裂溝填塞法	：三村	基礎実習室				
13	う蝕活動性試験	種類と特徴	基礎実習室				
14	唾液を検体とするう蝕活動試験		基礎実習室				
15	う蝕活動性試験の評価結果に基づく予防と治療		基礎実習室				
成績の評価方法と基準							
種別	割合	評価基準・その他備考					
定期試験	60%						
レポート・課題	15%	評価基準は別途示す					
小テスト							
その他	25%	臨床実習実技テスト 評価基準は別途示す					
自由記載	必要に応じてプリントを配布する						
教科書							
書名	著者・編集者名			出版社名			
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社			
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会			医歯薬出版株式会社			
自由記載							
参考文献							
書名	著者・編集者名			出版社名			
特に指定しない							
自由記載							
備考							

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
歯科保健指導Ⅲ		講義・演習	野崎 愛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 対象者の多様な生活背景・心理・健康状態を踏まえて、適切な歯科保健指導および歯科衛生介入を実践できる基礎知識と技術を習得する。 2. 保健行動支援のための基礎知識を学習し、歯科保健指導を行う際の理論を習得する。 3. 歯科保健指導における歯科衛生過程の枠組みと全体像を習得する。				
授業の到達目標				
1. 配慮を要する対象者の特徴を理解し、適切な歯科衛生介入を説明できる。 2. 保健行動支援のためのコミュニケーションスキルや行動変容モデル・動機づけなどを理解し、事例展開できる。 3. 歯科衛生過程の全体像を理解し、実践に向けた知識と技術を習得できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯周病・酸食症・咀嚼と食生活 P291-296, ストレスマネジメント P296-298			
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入－高齢期 P354-372			
3	配慮を要する者への歯科衛生介入－要介護高齢者 P373-381 配慮を要する者への歯科衛生介入－障害児者① P381-388			小テスト
4	配慮を要する者への歯科衛生介入－障害児者② P381-388 配慮を要する者への歯科衛生介入－大規模災害被災者 P389-395			
5	口臭症 P119-122 保健行動支援のための基礎知識① P45-62 コミュニケーションスキル			小テスト
6	保健行動支援のための基礎知識② P45-62 行動変容に関連する理論			
7	保健行動支援のための基礎知識③ P45-62 行動変容を促す理論の実践			
8	歯科衛生過程の進め方① P66-89 概要			小テスト
9	歯科衛生過程の進め方② P66-89 問題解決			
10	歯科衛生過程の進め方③ P66-89 構成要素			
11	歯科衛生過程の進め方④ P66-89 歯科衛生診断			小テスト
12	歯科衛生過程の進め方⑤ P66-89 歯科衛生計画			
13	歯科衛生過程の進め方⑥ P66-89 歯科衛生介入・歯科衛生評価			
14	歯科衛生過程の進め方⑦ P66-89 記録			
15	歯科衛生過程の進め方⑧ P66-89 まとめ			小テスト
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	5%	評価基準は別途示す		
小テスト	25%			
その他				
自由記載	必要時は別途講義資料を配布する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
「生きる力」をはぐくむ 学校での歯・口の健康づくり改訂版	日本学校保健会		日本学校保健会	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
栄養指導		講義	南 久則	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
現代の健康と食生活に関する問題や課題と、歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識と技法について学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 健康・栄養と歯科衛生士の関わりについて説明できる。 2. 栄養素の種類と働きについて説明できる。 3. 食事摂取基準、食品分類、食事バランスガイドを説明できる。 4. 栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 5. ライフステージと栄養を説明できる。 6. 疾患の栄養療法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	栄養学と歯科衛生士：健康・栄養と歯科衛生士の関わりについて理解する			
2	国民の健康と栄養の現状：国民健康・栄養調査を活用し、国民の健康と栄養についての課題を理解する			
3	栄養素の種類と働き（1）：糖質と脂質の種類と働き、消化・吸収を理解する			
4	栄養素の種類と働き（2）：たんぱく質の種類と働き、消化・吸収を理解する			
5	栄養素の種類と働き（3）：ビタミン・ミネラルの種類と働き、消化・吸収を理解する			
6	日本人の食事摂取基準：日本人の食事摂取基準の理論と活用法を理解する			
7	食事と食品：食事バランスガイド、食品の機能と表示を理解する			
8	栄養ケアマネジメント（1）：栄養アセスメントの種類と方法を理解する			
9	栄養ケアマネジメント（2）：栄養ケア・マネジメントの方法を理解する 歯科衛生士行う栄養ケア・マネジメントの意義を理解する			
10	ライフステージと栄養（1）：妊産婦期、授乳期期の栄養の特徴について理解する			
11	ライフステージと栄養（2）：乳児期、幼児期、学童期、思春期の栄養の特徴について理解する			
12	ライフステージと栄養（3）：成人期の栄養の特徴について理解する			
13	ライフステージと栄養（4）：高齢期の栄養の特徴について理解する			
14	主な疾患と栄養療法：肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧の栄養療法について高齢期の栄養の特徴について理解する			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%			
レポート・課題	40%	課題への取り組みや結果をもとに評価する。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
日本人の食事摂取基準2025年版			第一出版	
自由記載				
備考				
日本人の食事摂取基準2025年版は厚生労働省ウェブサイトに掲載されています。 https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001316585.pdf				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名	授業形態	担当教員名	
歯科診療補助Ⅲ	講義・演習	今川 由香・野崎 愛・藤澤 仁美	
時間数（単位数）	授業回数	年次	開講時期
45 時間（2 単位）	23 回	2 年次	前期

授業の目的・概要
 専門的な歯科診療補助の方法を学び、歯科衛生士業務に必要な器材、材料、薬品の名称、使用方法を理解する。臨床実習で診療補助がスムーズに行えるように必要な技術を身につける。

- 授業の到達目標**
1. 歯科診療補助の器具を準備できる。
 2. 歯科診療補助の手順を説明できる。
 3. 患者の安全に配慮した歯科診療補助ができる。
 4. 全額の印象採得することができる。
 5. 臨床実習での診療補助が実施できる。

授業計画

回	内容		基礎実習室	16	難抜歯 インプラント埋入	基礎実習室
1	アルジネート印象採得 石膏模型	基礎実習室	16	難抜歯 インプラント埋入	基礎実習室	
2	アルジネート印象採得 石膏模型 相互実習	臨床実習室、基礎実習室	17	インプラント補綴		
3	アルジネート印象採得 石膏模型 相互実習	臨床実習室、基礎実習室	18	補綴 クラウン ブリッジ インレー	基礎実習室	
4	アルジネート印象採得 石膏模型 相互実習	臨床実習室、基礎実習室	19	補綴 義歯	基礎実習室	
5	保存修復 覆髄 裏層1	基礎実習室	20	矯正 歯科診療補助論 器具について	基礎実習室	
6	保存修復 直接修復 CR充填	基礎実習室	21	矯正 歯科診療補助論 器具について	基礎実習室	
7	保存修復 直接修復 CR充填	基礎実習室	22	小児歯科 小児への対応法		
8	保存修復 間接修復 インレー	基礎実習室	23	小児歯科 歯冠修復 生活断髄法		
9	保存修復 間接修復 Cr	基礎実習室				
10	歯髄処置 手順 器具 機械について	基礎実習室				
11	歯髄処置 手順 器具 機械について	基礎実習室				
12	根管処置 手順 器具 機械について	基礎実習室				
13	根管処置 手順 器具 機械について	基礎実習室				
14	外科処置 抜歯 麻酔 手順 器具	基礎実習室				
15	外科処置 抜歯 麻酔 観血処置について	基礎実習室				

成績の評価方法と基準

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	70%	
レポート・課題	30%	毎回規定通りに提出すること。評価基準を別途示す。
小テスト		
その他		
自由記載		

教科書

書名	著者・編集者名	出版社名
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社
イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版	竹澤保政	永末書店
新人歯科衛生士・歯科助手 院内マニュアル 第2班	江澤庸博	医歯薬出版株式会社
自由記載		

参考文献

書名	著者・編集者名	出版社名
なし		
自由記載		

備考

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医療安全		講義・演習	三村 明美・野崎 愛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
医療安全管理とマネジメント能力を身につけることを目的とする。 対象者の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的な思考を基に、問題を明確化し解決するための過程を理解する。 児童に対する集団教育の基礎知識と技術の習得と実践を行う。				
授業の到達目標				
1. 医療事故、ヒヤリハットの定義、概念を理解する。 2. 感染管理対策を身につける。 3. 適切な整容と実習態度で、児童に対して集団保健指導を実践できる。				
授業計画				
回	内容			
1	インシデント・アクシデント		三村	基礎実習室
2	医療安全対策		三村	基礎実習室
3	地域歯科保健活動における健康教育 P400-424		野崎	
4	地域歯科保健活動オリエンテーション		野崎	
5	地域歯科保健活動（多井畑小学校） ライオン小学校歯磨き大会		野崎	
6	地域歯科保健活動（多井畑小学校） ライオン小学校歯磨き大会		野崎	
7	個人用防護具PPE（メディコム）	滅菌グローブ、滅菌ガウン着脱	三村	基礎実習室
8	個人用防護具PPE（メディコム）	滅菌グローブ、滅菌ガウン着脱	三村	基礎実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する（評価項目は別途示す）		
小テスト				
その他	10%	地域歯科保健活動実習の取り組み（評価項目は別途示す）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌消毒洗浄	ICGH研究会編		医歯薬出版株式会社	
よくわかる歯科衛生過程	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床検査		講義	木村 英訓	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生士業務の実施に必要な基本的検査および全身の一般検査の意義と関連を理解する事を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 医療情報の意義、臨床検査の倫理と安全を説明できる。		2. 歯科治療にあたり、留意すべき主な全身疾患と偶発症を説明できる。		5. 検体検査を説明できる。
3. バイタルサインのモニタリングを概説できる。		4. 生理機能検査を説明できる。		6. 口腔領域の臨床検査を説明できる。
				7. 摂食嚥下関連の検査を説明できる。
授業計画				
回	内容			
1	臨床検査の倫理と安全性 (総論) 生体検査① (バイタルサイン)			
2	生体検査② (心機能、筋電図、脳波、血中酸素濃度) 検体検査① (採血) 口腔領域の臨床検査① (口臭)			
3	検体検査② (血液学的検査、血液凝固・線溶系検査) 口腔領域の臨床検査② (味覚検査)			
4	検体検査③ (生化学検査) 口腔領域の臨床検査③ (歯科金属アレルギーの検査)			
5	検体検査④ (免疫・血清検査、血液型検査、その他の検査) 口腔領域の臨床検査④ (舌の検査)			
6	検体検査⑤ (感染症・細菌検査、病理検査) 口腔領域の臨床検査⑤ (口腔粘膜の検査)			
7	口腔領域の臨床検査⑥ (唾液検査、歯周組織の検査、歯の検査、根管細菌培養検査)			
8	摂食嚥下関連の検査 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	授業態度、授業にのぞむ姿勢を評価。別途評価基準を示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 臨床検査	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
摂食嚥下		講義	今川 由香・野崎 愛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
歯科医療が担うべき摂食嚥下の病気、病態及びその対処法を理解し、摂食嚥下機能の保持増進の知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 摂食嚥下運動にかかわる器官の基本的な解剖と正常な摂食嚥下機能のプロセスを説明できる。 2. 摂食嚥下機能障害の代表的な病気と病態を説明できる。 3. 摂食嚥下機能障害患者の診療における歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーションP2～31 摂食嚥下とは 摂食嚥下障害とは 今川			
2	MFT 正しい舌の位置 基礎実習室 今川			
3	咬合および咀嚼機能の管理と評価P68～73 今川			
4	嚥下メカニズムP43～55 今川			
5	咀嚼の評価と管理P74～93 今川			
6	成人期、老年期の疾患に伴い多くみられる摂食嚥下障害P127～142 今川			
7	成人期及び老年期に対する評価 スクリーニングテストP179～189 今川			
8	成人期及び老年期に対する評価 スクリーニングテストP179～190 今川			
9	摂食嚥下障害に対する計画立案 訓練P191～220 今川			
10	発達期の摂食嚥下機能P56～57 発達期の摂食嚥下障害と原因疾患P111～125 今川			
11	発達期の摂食嚥下機能の評価P166～178 発達期における摂食嚥下障害に対する訓練の考え方と計画立案P193 今川			
12	栄養管理P101～110 野崎			
13	リスクマネジメントP148～165 野崎			
14	摂食嚥下障害に対する食事指導P221～237 野崎			
15	口腔衛生管理P238～262 野崎			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	10%	レポートを期限内に提出する。評価基準は別途示す。		
小テスト	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版	公益社団法人日本歯科衛生士会	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
チーム医療		講義	足立了平・大脇利美・藤田愛・中島成美 福林秀幸・菊森清美・今川由香	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
積極的に医療に参画することができるようになるために、医療の流れ、各医療職の職能、チーム医療における歯科衛生士の役割など、基礎知識を習得する。				
授業の到達目標				
1. 医療チームのメンバーの役割と連携を説明できる。 2. チーム医療における歯科の役割について説明できる。 3. 保健・医療・福祉・介護における多職種連携と歯科衛生士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	病院歯科の歯科衛生士の役割①	歯科衛生士	大脇	
2	病院歯科の歯科衛生士の役割②	歯科衛生士	大脇	
3	病院歯科の歯科技工士の役割	歯科技工士	中島	
4	IPE	歯科衛生士	今川	
5	IPE	歯科衛生士	今川	
6	口腔機能障害について	言語聴覚士	菊森	
7	口腔機能障害について	言語聴覚士	菊森	
8	災害医療と歯科医療①	歯科医師	足立	
9	災害医療と歯科医療②	歯科医師	足立	
10	車椅子、ベット等の移乗実習	理学療法士	福林	
11	車椅子、松葉づえ等の使用実習	理学療法士	福林	
12	IPE	歯科衛生士	今川	
13	IPE	歯科衛生士	今川	
14	IPE	歯科衛生士	今川	
15	訪問看護と歯科との関わり	訪問看護師	藤田	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	毎回授業のレポートを提出。別途評価基準を示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
関連医学・医学概論		講義・演習	黒木 信祐・今川 由香・藤澤 仁美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>歯や口腔の状態は全身の健康に大きな影響を及ぼし、様々な疾患が歯や口腔の機能に影響を与える。ここでは歯科と関係が深い様々な疾患を学び、歯科診療や多職種連携において、歯科衛生士に必要な医学的知識を修得することを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 講義で取り上げる様々な疾患の病因、病態、症状、治療などを知り、歯科との関係や診療時における留意点などを理解する。 2. パノラマ、デンタルX線の読影ができる。 3. パノラマ、デンタルX線の撮影準備ができる。 4. カルテ用語を理解した。 5. 口腔周囲筋のトレーニングを理解する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論 代謝・内分泌疾患について：黒木			
2	消化器疾患、循環器疾患について：黒木			
3	血液疾患、呼吸器疾患について：黒木			
4	腎・泌尿器疾患について：黒木			
5	免疫疾患・膠原病について：黒木			
6	感染症について：黒木			
7	神経疾患について：黒木			
8	精神疾患について：黒木			
9	ガン、婦人科疾患について：黒木			
10	パノラマの読影および撮影方法：黒木			基礎実習室
11	デンタルX線写真の読影および撮影方法：黒木			基礎実習室
12	カルテ記載について：院内マニュアルP50-53：今川			
13	MFT：今川			基礎実習室
14	歯面清掃器 エアーフロー：藤澤（NSK）			臨床実習室
15	歯面清掃器 エアーフロー：藤澤（NSK）			臨床実習室
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	20%	レポートを期限内に提出する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック	橋本賢二		医歯薬出版株式会社	
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

歯科衛生士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
看護学		講義	土肥 加津子 他	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
看護学の学習を通して、保健・医療・福祉分野および人間の生活における看護の役割を伝え、看護への関心を得たい。				
授業の到達目標				
1. 看護学について理解する。 2. 看護の対象理解について、講義・演習・体験を通して学習する。 3. 医療現場における看護師の活動を知り、歯科衛生士との協働について考える。 4. 保健・医療・福祉分野における看護（看護師）活動の課題・展望を考える。				
授業計画				
回	内容			
1	看護と看護学～暮らし・社会の変化と看護の専門性、法的根拠			
2	対象理解（1）～個人・家族・地域の理解、人間の尊厳と看護の歴史			
3	対象理解（2）～患者と回復過程、患者を取り巻く環境とチーム医療			
4	看護の知識・技術・態度（1）～安全/安楽/自立への看護（観察と身体侵襲のある技術）			
5	看護の知識・技術・態度（2）～安全/安楽/自立への看護（コミュニケーション、看護管理）			
6	看護の知識・技術・態度（3）～安全/安楽/自立への看護（歯科衛生士との協働の実際、看護工学）			
7	専門性発揮と拡大する看護の場～予防、災害、国際、DX化も視野に			
8	医療・社会への貢献と生涯教育～その先、を考える			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				